# ヒッポファミリークラブのキルギスホームステイ交流

# 「言葉と人間に出会う旅」



神保 泰興（JIC 東京）

一般社団法人言語交流研究所ヒッポファミリークラブは、1981 年の創立以来、全国各地で、日本にいながら英語だけでなくいくつもの言葉（多言語）を勉強し話す環境を楽しむ活動を行っています。国や文化、習慣、言葉の違いをこえて、どんな人とも心を開いて交流することを目的としています。なかでも、海外ホームステイ交流はその中心活動として、30 年以上続く大規模プログラムですが、私たちジェーアイシー旅行センターは、ヒッポファミリークラブのロシア語圏でのホームステイ交流と現地への渡航手配を、長年お手伝いしてきました。

ヒッポファミリークラブのホームステイ交流は、大学生などが行う語学研修とは異なり、「言葉と人間に出会う旅」として、文化や生活の違いを楽しんでいます。一緒に食事をしたり、こどもと遊んだり、家の手伝いをしたり、現地での生活を通して新しい家族と出会い、その一員となる体験です。帰国後もお互いに連絡を取り合い、来日交流をしたり、家族ぐるみの交流が続けられています。



## 2023 年からスタートしたキルギスでのホームステイ交流

2020 年のコロナ禍以降、その後の国際情勢の変化もあって、ロシアへのホームステイ交流はまだ再開されていませんが、私たちジェーアイシー旅行センターがお手伝いして、2023 年９月から、中央アジア・キルギス共和国での交流が新たにスタートしました。

旧ソ連の構成国であったキルギスは、現在でもキルギス語と共にロシア語が公用語に定められており、街中でも普通にロシア語が通用します。大半の人々が２種類以上の言語を使い分けている多言語社会です。例えば、「おはようございます」はロシア語なら Доброе утро（ドーブラエ・ウートラ）ですが、キルギス語では Кутман таң（クットマン・タン）と言い、全く違う言葉です。

## 毎年 8 月か 9 月に 20 名前後が「家族交流」

2023 年の初回の交流は、22 名のパイオニアメンバー（通称カザキル隊）に参加いただき、首都ビシュケクとその周辺で、5 泊 6 日のホームステイが実施されました。以来、毎年８月または９月に、20 名前後の参加者により「家族交流」の回を重ね、今年で４回目の実施となりました。

そして今年８月からは、10 代、20 代の若者を中心とする「青少年交流」も新たにスタートしました。

毎回の交流では、出発前に繰り返しミーティングを持ち、過去の参加者の経験を聞き、交流の進め方を話し合うなど、入念な準備が行われます。メンバーでおそろいのＴシャツを作ったりして、参加者同士の一体感を強め、交流への気持ちを高めています。

## 経由便を利用／ソウル、アルマトイで観光も楽しむ

キルギスへの直行便がなく経由便も限られるため、渡航のルートは、2023 年の交流開始以来ずっと、成田から韓国ソウル経由のアシアナ航空便で、まずはカザフスタンのアルマトイへ向かいます。ソウル・仁川空港での乗り継ぎ時には韓国グルメを楽しんだり、韓服を着たりと、待ち時間も海外交流を満喫しています。

アルマトイ到着後に１泊。年によっては、アルマトイでも日本語学習者との交流会を持つことがあります。翌日はアルマトイの半日観光。ゼンコフ教会、パンフィロフ公園、グリーンバザール、そして郊外にある標高 3200m のメデウ（シンブラク）など、アルマトイの町を短いながらも楽しみます。

その後は専用バスで４時間ほどかけて、アルマトイからキルギスの首都ビシュケクへ向かいます。陸路でのカザフ・キ

ルギス国境越えは、日本からの海外旅行のルートでは、なかなか機会がない貴重な経験となります。

### ホームステイ中はキルギス家庭料理を満喫

ビシュケクに到着するとホスト家族との対面式。ホスト家族の皆様は、キルギスの踊りや音楽で迎えてくれます。日本側も日本の歌「もみじ」を歌ったりして応えます。そしていよいよホームステイが始まります。

各メンバーが１人ずつ現地の家庭に入り、日常生活を共有する中で、キルギスの習慣を体験したり、日本の文化を紹介したりします。







「家族交流」の一コマ。どれもこれも初めての体験。どの顔にも笑顔があふれています。



ステイ中は外食ではなく、ほとんどアパ（お母さん）たちのおいしい手作りのキルギス家庭料理をいただきます。お肉中心ですが、野菜や果物もたっぷり。チーズやハチミツもあります。味付けは塩胡椒が中心で、辛いものはあまりないようです。特に手際よく作ってくださったマンティ（水餃子）が美味しかったとの声がありました。

### ホストファミリーとともに外出も楽しむ

滞在中、ホスト家族はいろいろなところに連れて行ってくれます。ビシュケク市内の国立博物館、世界遺産のブラナの塔やアラアルチャ国立公園などなど。ビシュケク市内から遠く離れ、ソビエト時代には幻の湖といわれたイシククリ湖まで行って湖水浴や沿岸にある温泉を楽しんだという方、あるいは生まれて初めて馬に乗せてもらったという参加者もたくさんいます。ホスト家族の真心で、日本では決して出来ない体験をたくさん経験することができました。

日本帰国後も、キルギス交流の参加者の皆さんは、滞在中に耳にしたキルギス語を、お互いに毎日のように投げかけ合っています。そして、今度はキルギスから訪日する交流団のホームステイを各家庭で受け入れ、相互交流を積み重ねています。

＊　　＊　　＊

私たちジェーアイシー旅行センターも、これまで４年間にわたり、ヒッポファミリークラブのホームステイ交流のお手伝いを、無事故で行うことができました。まだまだ日本では広く知られていないキルギスの自然と文化、そして何よりそこで暮らす人々の魅力を多くの方に体験していただくことができ、心から嬉しく思います。

来年以降も、更なる交流の推進を通して、相互理解に少しでも貢献できるよう尽くして参りたい、と願っています。

（旅行手配／ヒッポファミリークラブ担当者）

